

fiber, very rarely. **ep'**: epidermis of petiole and vein.

(2) **Powdered Moutan**. Dusky yellowish brown powder of root bark. (Fig. 2).

**p**: parenchyma, containing starch grains. **sta**: single or 2 to 4-compound starch grains, the former  $10-20\mu$  ( $8-25\mu$ ), the latter  $20-30\mu$  in diameter; hilum distinct, lamellae indistinct. **kl**: fragments of corklayer, chiefly in surface view, containing tannin (**ta**). **ca**: rosette aggregates of Ca-oxalate,  $20-30\mu$  in diameter. **co**: fragments of collenchyma, in surface view (**co**) and in lateral view (**co'**); outer cell contain tannin (**ta'**), inner cell starch grains. **mr**: medullary ray cells. **pcr**: thin-walled parenchyma, containing crystals of Ca-oxalate. **s**: sieve portion, rather obliterated.

### ○ミズキンバイ (原 寛) Hiroshi HARA: A Japanese form of *Jussiaea repens*.

日本のミズキンバイは最近大井博士によつて独立種 *J. stipulacea* Ohwi と見なされたが矢張り *J. repens* 種中のものと思う。日本産は全体無毛で、莖上部の葉の托葉及び子房中部の小苞の位置に円心形の顯著な腺状体があつて後に海綿質様になり、花は鮮黄色 ('Lemon Chrome') を呈し、果は太く (径  $5-7\text{mm}$ ) 長柄 ( $2-6\text{cm}$ ) を有する。*J. repens* の原産地を含むアジア熱帯のものでは毛の多少は著しく変るが、少くとも子房には毛があるのが普通である。しかし稀には全く無毛のものがあつてその様なジャバ産の標本を見る事ができたし、又 var. *glaberrima* O. Kuntze と云う名もその様な形につけられたのかも知れない。腺状体は卵形で小さく海綿状にならない。その花色は白つばいものが多く、又淡いクリーム色で瓣の下部が黄色のものもある。果はやや細く柄は概ね短い。花柱の長さの差異は余りはずきりしない。台湾産の標本を見ると明かに日本型に属するものもあり、又萼片のみに毛のあるものや子房にまで立毛のあるもの、或は腺状体の小形なもの等があつて移行地帯とみられる。米大陸でも *J. repens* は更に著しい変異を示しているが、それらは最近 var. *glabrescens* O. Kuntze, var. *peplodes* Griseb. 及び var. *montevidensis* Munz として扱われている。この様に見るとミズキンバイも廣い分布をもつ *J. repens* のアジア東北方に分布する一地方型として次の様に扱う方が妥当と思われる。

*Jussiaea repens* L. var. ***stipulacea*** (Ohwi) Hara, stat. nov.

*J. stipulacea* Ohwi in Journ. Jap. Bot. **26**: 232 (1951).

終に本種について注意を喚起されジャバ産の標本を多数送つて下さつたオランダの Steenis 博士、生資料の採集を手傳つて下さつた久内清孝、佐々木一郎両氏に深謝する。

なお同属のウスゲチャウジタデ (*J. Greatrexii* Hara) は関東地方にもあり、上総茂原や一宮附近の濕地に普通に見られる事を附記する。